

## 平成27年度 第2回 平塚市美術館協議会 会議録

開催日時 平成28年3月23日(水) 13時30分～15時20分  
開催場所 平塚市美術館 研修室  
出席者 会長 水沢勉  
副会長 河野孝博  
委員 鈴木靖、栗木雄剛、宮澤達寛、加藤宏、後藤真由美、岩城孝子  
事務局 草薙館長、小林副館長、土方館長代理、近藤担当長、  
勝山学芸員、江口学芸員、家田学芸員、安部学芸員  
傍聴者 なし

### 会議の概要

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 職員紹介
- 4 議題
  - (1) 平成27年度の事業報告について  
これまでの事業報告(事務局から説明)  
作品 展覧会 教育普及 その他の事業 施設利用者等の統計
  - (2) 平成27年度奏プラン事業の点検評価について(事務局から説明)
  - (3) 平成28年度の事業予定について(事務局から説明)  
展覧会 教育普及
  - (4) その他
- 5 閉会

### 館長あいさつ

本日は、平成27年度の事業報告と平成28年度の事業予定を説明いたします。

美術館をより良くしていくためにも、これまでの事業を継続しつつ、少し変えていかなければいけないと思っています。委員のみなさまのご意見を聞かせていただき、参考にしていきたいと思っています。

忌憚のないご意見・アドバイスをよろしくお願いいたします。

### 議題及び質疑

- (1) 平成27年度美術館事業について これまでの事業報告  
下半期の展覧会事業、教育普及事業について、内容・会期・関連事業等を事務局から説明。

その他の事業、施設利用者等の統計、施設の管理、ミュージアムコンサートや防災訓練等の内容等を事務局から説明。

#### 展覧会事業について

- 委員 ペコちゃん展で現代アーティストの作品を展示し、若い作家を育てる機会となった。平塚市美術館が若い作家の発信元となるよう、今後も現代アーティストを取り上げていただきたい。
- 事務局 ペコちゃん展は子ども向けに企画したが、現代美術作家も取り上げ、その中で力のある作家に協力していただいた。ペコちゃんと一緒に展示したことで現代美術が分かりにくいこともなく、現代美術を紹介することができた。現代美術だけでは観覧者は入らないため、展覧会を開催する場合は企画展開催時に特集展として考えている。開催中のロビー展も若手作家を取り上げているので今後も若手作家の育成を続けていきたい。
- 委員 展覧会タイトルについて、いろいろと考えていると思う。わの会展でのサラリーマンコレクターというサブタイトルをつけなくてもよかったのではないかと。タイトルを決めるのは難しいと思うが、タイトルは、大事である。
- 事務局 わの会という既存の団体自体がサラリーマンコレクターという表現を使用している。高価な作品ではないが作品を収集することができることを観覧者に勇気づける思いで、今回のタイトルをつけた。展覧会内容をタイトルに込めなければいけないので毎回タイトルを決めるにあたって苦労している。

#### 寄贈作品について

- 委員 作品の寄贈を美術館から依頼しているのか。また寄贈していただくケースはどのような場合なのか教えていただきたい。
- 事務局 美術館が依頼する場合と先方から寄贈申出がある場合がある。申出をいただいても収蔵庫スペースにも限りがあるので、第三者組織からなる美術品選定評価委員会にコレクションとしてふさわしい作品か、活用可能な作品かを諮っているが申出を断る場合もある。

#### 教育普及プログラムについて

- 委員 参加者が10人から20人のプログラムがある。募集人数について教えていただきたい。
- 事務局 缶バッチづくりのように作品がすぐに出来上がるワークショップを除き、スペース面や教える講師も大人数では教えきれないため、25人以内が妥当と考えている。
- 委員 学芸員が学校へ出向くプログラムがあると、興味を示す学校があるのではないかと。
- 事務局 学芸員数が少なく、積極的に出向くのは難しい状況だが出前授業の必要性は感じている。美術館まで足を伸ばせない等の地域的な理由で出前授業を行っている公立美術館もあるが、平塚市では美術館に来ることが困難であるということもないので、美術館という空間で実際に美術体験や作品を鑑賞していただきたい。
- 委員 小学校3年生を対象に文化ゾーンにある博物館などで市内社会見学を実施している。校長会を通して積極的に美術館見学のPRをしていただきたい。
- 委員 東海大学と協働して出前授業をしていくのはどうか。
- 事務局 基本的には美術館に来ていただき、東海大学の先生が講師としてアトリエ等でデッサンなどを教える協働事業として実施している。

(2) 平成27年度奏プラン事業の点検評価について

平塚市教育振興基本計画(奏プラン)の概要及び「魅力ある美術展覧会事業」ほか4事業の点検評価について、協議会委員の意見や美術館の取組み等について説明。

美術品の調査・収集事業について

- 委員 委員が市に対して作品購入の必要性について働き掛けをする機会はあるか。
- 事務局 美術館協議会は館の運営等に関して意見を述べる機関で委員から働き掛けをすることは可能である。現在は作品の収集は寄贈が主となっている。
- 委員 寄贈寄託作品だけで一流の作品が収集できるとは限らない。この美術館に行くところの作品に出会えるというような作品が1点でもあればよい。金銭的にはかかるが市民の美術を観る目を養うためにも、作品購入について働き掛けていきたい。
- 委員 購入予算の確保は必要である。

(3) 平成28年度の事業予定について

上半期の展覧会事業の内容・会期等、教育普及事業の主なワークショップの内容等を事務局から説明。

展覧会事業について

- 委員 トリック展は楽しみ。タイトルもよく、子どもたちもトリックは好きである。美術館、図書館、博物館の3館コラボを実施する予定はあるか。
- 事務局 夏休み期間に合わせて、3館コラボとして図書館では、トリックアートに関する本の展示、博物館ではサイエンストリックを予定している。
- 委員 高松市美術館が開催したトリックアート展で60,000人も入ったと聞いているので人数が入った要因を確認しておくといよい。
- 事務局 展覧会タイトルデザイナーから「平塚市はJリーグのサッカーがあり「ハットトリック」でいかがか」と話があった。高松市美術館には観覧者が入った要因を確認しておきます。

教育普及事業について

- 委員 教職員へのPRとして、パソコンを通じてスクールプログラムのPDF化しての配架や美術館ホームページにリンクできるルートを作成していただくと、美術館を身近に感じていただくことができると思う。
- 事務局 PDF化した配架や美術館とのリンクができるように進めていきたい。
- 委員 学校の美術教員自体が美術館の展覧会やワークショップを知らない場合がある。子どもが美術と触れ合うことは、これから生きていく上で人生を考える幅を持たせ、大人になった時も将来的なビジョンを立てる場合に役立つ。そのためにも美術教員の強化プログラムが増えればよいと思う。
- 事務局 学校教育との連携は、大きな課題として取り組んできた。学芸員が学校に出向いて教員と話し合うなど連携した成果は確実に上がっている。今後美術館を安定的に運営していく上でも学校教育との連携は外せないと考えている。

(4) その他

高校生の観覧料について

委員 高校生の観覧料を無料にしている公立美術館がある。親子で観覧する場合に高校生は無料にするなどの方法があってもよいのでは。

事務局 高校生は学校が完全週休2日制となった際、文部科学省通知に基づき土曜日を無料としている。高校生の観覧は少ないので、美術館に来ていただく工夫や観覧料についてもいろいろと調べ今後考えていきたい。

文化財レスキューについて

委員 震災から5年が経ち、文化財レスキューが話題となっている。風化されないよう、作品や資料について、しっかり守れるようにしていただきたい。震災当時、美術館職員が現地に出向き、美術品の救援活動を行ったか。

事務局 当館には依頼がなく特に美術品の救援活動は行っていない。

平成 27 年度第 2 回平塚市美術館協議会次第

平成 28 年 ( 2016 年 ) 3 月 23 日 ( 水 )

場 所 平塚市美術館研修室

時 間 午後 1 時 30 分から

1 . 開会

2 . 委員紹介

3 . 職員紹介

4 . 議題

( 1 ) 平成 27 年度の事業報告について

作品	P 1
展覧会	P 4
教育普及	P 15
その他の事業	P 20
施設利用者等の統計	P 26

( 2 ) 平成 27 年度奏プラン事業の点検評価について

( 3 ) 平成 28 年度の事業予定について

展覧会	P 29
教育普及	P 34

( 4 ) その他

5 . 閉会

## 奏プランの位置付け

平塚市教育委員会では、平成22年度からの10年間を見据えた「平塚市教育振興基本計画」通称 奏プランを策定しています。

奏プランは、「豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち」づくりを教育分野の基本目標に掲げる「平塚市総合計画」の方針「一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ」「生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ」を達成するため、平塚市教育委員会が取り組む教育振興基本計画と位置付けています。

奏プランの実施計画を構成する事業は、5年間を見据えつつ取り組めますが、毎年度実施する「教育委員会の点検・評価」の結果や社会情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて見直しをしながら推進するもので、美術館では、5つの事業が奏プランに含まれています。

重点項目	重点項目4 生涯学習拠点を活用した地域社会の活性化	番号	4 - 3	
事業名	アートギャラリー等施設利用促進事業			
事業概要	館を訪れる方の安全の確保と美術品の良好な保存のため、施設の補修や保守点検等適切な維持管理をします。			
主な行動目標	アートギャラリーやミュージアムホール等施設の利用促進をめざします。 目標値は、アートギャラリー等の利用者数			
平成27年度 目標値	平成27年度 実績値	平成28年度 目標値		
66,000人	53,930人	67,000人		
1 平成27年度の実績（平成28年1月31日現在）				
	施設名	利用団体数	利用日数	入場者数
	市民アートギャラリー	46団体	251日	50,543人
	ミュージアムホール	43団体	43日	2,949人
	アトリエ	11団体	22日	438人
	合計	100団体	—	53,930人
<b>特記事項</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月に弦楽四重奏によるミュージアムコンサート「ドイツ後期バロック 輝かしい3人の巨匠たち」を実施した。（202名参加）</li> <li>・施設の利用促進のため、アートギャラリーやミュージアムホール等の利用案内を近隣施設の博物館と図書館にも配架した。</li> <li>・館を訪れる方の安全と施設の快適利用のため、関係課等と設備などの確認を行うとともに定期的に館内を巡視し維持管理を行った。</li> <li>・市民アートギャラリーは、平塚市と東海大学交流提携30周年記念事業「東海大学附属図書館特別図書展」や幼小図工作品展、平塚市保育園児絵画展など幅広く利用され、多くの方が来場した。</li> </ul>				
<b>協議会委員の意見欄</b>				
<b>事業の感想やコメント</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出施設は、市民や団体の様々な活動への支援として、有効的に施設利用されている。また、鑑賞や交流の場となり、美術館と子ども達、保護者をつなげる重要な場所である。</li> <li>・市民アートギャラリーは、幼小図工展や保育園児絵画展など、児童の図工教育と深くつながっている。出品される児童、保護者等にとってもたいへん価値があり有意義である。</li> <li>・市民アートギャラリーに比べ、ミュージアムホールとアトリエの利用率が低い。</li> </ul>				
<b>今後に期待すること</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アートギャラリーの利用案内をはじめ、宣伝広報を積極的に展開していただきたい。利用促進のために、公民館や学校に利用案内の配架などでPRが大事である。</li> <li>・ミュージアムコンサートは、音楽と美術館のコラボレーションとして人気があるので継続していただきたい。</li> </ul>				
<b>【美術館の取組み】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アートギャラリー等の施設のPRと利用促進に努めます。また、館を訪れる方の安全の確保等適切な維持管理に努めます。</li> </ul>				

重点項目	重点項目4 生涯学習拠点を活用した地域社会の活性化	番号	4 - 5						
事業名	美術品の調査・収集事業								
事業概要	美術品の収集活動・調査研究や保存活動等を行い、作品情報等をホームページや情報コーナーで公開します。								
主な行動目標	最新のデジタル画像を提供するため、更新を行います。 目標値は、最新デジタル画像公開件数								
平成27年度 目標値	平成27年度 実績値	平成28年度 目標値							
44件	—	44							
<p>1 平成27年度の実績</p> <table border="0"> <tr> <td>作品の購入</td> <td>0点</td> </tr> <tr> <td>作品の寄贈</td> <td>22点</td> </tr> <tr> <td>作品の寄託</td> <td>3点</td> </tr> </table> <p><b>特記事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度寄贈寄託を受けた作品は、今年度の新収蔵品展での展示やホームページで公開した。</li> <li>・開催した展覧会を契機に作品の寄贈があった。</li> <li>・寄贈寄託作品は、日本画、油彩、版画、彫刻等幅広く来年度以降の所蔵品展で市民に公開予定。また、情報コーナーやホームページで公開予定。</li> </ul>				作品の購入	0点	作品の寄贈	22点	作品の寄託	3点
作品の購入	0点								
作品の寄贈	22点								
作品の寄託	3点								
協議会委員の意見欄									
<p>事業の感想やコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の共有財産である美術品の収集・調査・公開は、市民の関心も高い。ホームページの所蔵品情報の積極的公開を継続的に行い、作品の価値や魅力、作者のプロフィールなどについて分かりやすく説明が付されると良い。</li> <li>・昨年度まとめて寄託された石田徹也の作品や新進作家の作品は魅力がある。展覧会を企画した成果である。石田徹也の作品が新収蔵品展で展示され、好評であった。</li> <li>・最新の情報が得られるように、継続的に更新が行われている。</li> </ul> <p>今後期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も展覧会をきっかけに、質の高い寄贈寄託作品が増えることを期待している。</li> <li>・ホームページでの公開件数が多いと、教育分野での利用価値が高まる。来訪者が一目で分かるようにホームページのユニバーサルデザイン化をさらに進めていただきたい。</li> <li>・湘南地域と結びつきの深い作家が多い。優れた作家や作品を掘り起し、作品収集の充実を進めていただきたい。購入の継続を考えていただきたい。</li> </ul> <p>【美術館の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会開催を通じて、作品の寄贈等となるように今後も努めます。</li> <li>・所蔵作品の充実とホームページ等の継続的な情報更新に努めます。</li> </ul>									

重点項目	重点項目4 生涯学習拠点を活用した地域社会の活性化	番号	4 - 6
事業名	美術教育の普及・体験事業（ワークショップの開催）		
事業概要	美術に親しむ人々の拡大と美術に関する学習活動や体験を目的に、子供・親子や成人を対象としたワークショップを行います。		
主な行動目標	美術体験に対する関心を高めてもらうため、参加者を増やします。 目標値は、ワークショップへの参加者数		
平成27年度 目標値	平成27年度 実績値	平成28年度 目標値	
1,200人	2,276人	1,200人	
<p>1 平成27年度の実績（平成28年1月31日現在）</p> <p>美術への関心と親しむ人を増やす目的の体験型学習活動として、子供対象・親子対象・一般対象・スクールプログラムの52講座を実施し、2,276人の参加があった。</p> <p>中でも「赤ちゃんアート」は1歳から2歳3ヶ月までの子どもと保護者が絵の具、折り紙などでふれあい・コミュニケーションを体験する講座で、日常を忘れリラックスできる人気が高いワークショップで、子育て支援にもなっている。</p> <p><b>特記事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペコちゃん展関連ワークショップはいずれも好評でした。特に「ミルキーを作ろう」は、希望者が開館時間前に並ぶほどの盛況でした。（3日間で計9回403名の参加）</li> <li>・教員や学校事務職員を対象とした研修会を実施し、217名の参加があった。</li> <li>・市内保育園児を対象に園児鑑賞ツアーは、昨年度より2園多い5園で実施した。</li> <li>・市内小学生を対象とする「対話による美術鑑賞」を新たに導入するため、市民ボランティアを募集し実施に向けて研修を進めている。</li> </ul> <p>協議会委員の意見欄</p> <p><b>事業の感想やコメント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術に親しもうとする市民の多さ、美術館への関心の高さを感じる。親子参加型など幅広い年齢層に向けた多様なワークショップ、充実したスクールプログラムの実施が参加者の増加につながった。</li> <li>・赤ちゃんアートや対話による美術鑑賞は、子ども達が絵に関心や興味をもつきっかけになる。対話による美術鑑賞は、他人の意見を聞くことで、互いに刺激し合い、鑑賞の幅が広がる。</li> <li>・教職員等向けの研修会を夏休み期間中に実施していただき、大変好評であった。</li> </ul> <p><b>今後に期待すること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらにワークショップの継続強化と対話による美術鑑賞の成果を期待している。</li> <li>・児童生徒などの夏休み時期に合わせ、幼児から大学生、子育て中の父母を含めた若手教育の事業の継続を望む。</li> <li>・ワークショップの経験から美術に関心を持ち、美術館に足を運ぶ機会が増えることを期待したい。子ども対象の講座の充実を引き続きお願いしたい。</li> </ul> <p><b>【美術館の取組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の赤ちゃんアートや小学生を対象とした対話による美術鑑賞など、赤ちゃんから高齢者まで幅広い年齢層を対象としたワークショップの充実を図っていきます。</li> </ul>			

重点項目	重点項目4 生涯学習拠点を活用した地域社会の活性化	番号	4 - 7
事業名	魅力ある美術展覧会事業		
事業概要	多様な年齢層が国内外の優れた近現代美術作品に接する機会を充実するため、テーマを設定した企画展と所蔵品を活用した特集展を開催します。		
主な行動目標	美術に対する関心を高めてもらうため、観覧者数を増やします。 目標値は、展覧会への観覧者数		
平成27年度 目標値	平成27年度 実績値	平成28年度 目標値	
90,000人	98,134人	100,000人	
1 平成27年度の実績（平成28年1月31日現在）			
展覧会名		観覧者数	
「京都市美術館名品展」		8,377人	
「ペコちゃん展」		35,487人	
「画家の詩、詩人の絵」		9,294人	
「川口起英雄展」		9,379人	
「濱谷浩展」		21,969人	
「新収蔵作品展」		7,990人	
「わの会展」		2,819人	
ロビー展 「前田哲明の彫刻」		2,819人	
合 計		98,134人	
<b>特記事項</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペコちゃん展は、子どもから高齢者まで幅広い世代に人気で歴代4位の観覧者数となった。</li> <li>・ペコちゃん展の「子ども審査員賞」、わの会展の「あなたもアートコレクター お気に入りの作品を選ぼう」など、市民や観覧者が参加できる取組みを実施した。 (子ども審査員賞 約3,000人、わの会展のコレクター投票約1,000人が参加)</li> <li>・ペコちゃん展では、親子割引(7,466人)、開館時間延長(1,196人)を実施した。</li> </ul>			
<b>協議会委員の意見欄</b>			
<b>事業の感想やコメント</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い年齢層をカバーした多様な展覧会は、1年を通してバランスのよい事業であった。</li> <li>・ペコちゃん展は、大人にとってもレトロ感があり過去に思いを馳せることができ、子どもも大人も参加しながら楽しめる取組みが良かった。また同時開催した濱谷浩展は、すばらしく、時代を思い出させる作品や芸術家の執念みたいなものを感じた。</li> </ul>			
<b>今後に期待すること</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な年齢層を視野に入れた展覧会事業の継続は、美術館の特色になってきている。ワークショップとの関連も含め、さらなる展開を期待している。</li> <li>・幅広く親しみやすいテーマで、親子や家族で楽しめる企画は、集客力も上がり有効的である。</li> <li>・学校図書館でトリック本は人気があり次年度の開館25周年記念展が楽しみ。学校教育関係者へのPRをお願いしたい。</li> </ul>			
<b>【美術館の取組み】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年を通じて、世代や内容などバランスのとれた展覧会の開催に努めます。</li> <li>・展覧会に合わせて市民参加ができる取組みを引き続き考えていきます。</li> </ul>			

重点項目	重点項目4 生涯学習拠点を活用した地域社会の活性化	番号	4 - 25																														
事業名	美術教育の普及・体験事業（ギャラリートークの実施）																																
事業概要	担当学芸員が展覧会のポイントや作品の解説・質疑応答等を行いながら、展覧会全体を理解してもらうギャラリートークを行います。																																
主な行動目標	美術に対する関心を高めてもらうため、参加者を増やします。 目標値は、展覧会でのギャラリートークへの参加者数																																
平成27年度 目標値	平成27年度 実績値	平成28年度 目標値																															
600人	624人	600人																															
1 平成27年度の実績（平成28年1月31日現在）																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>展覧会名</th> <th>実施回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「京都市美術館名品展」</td> <td>2回</td> <td>93人</td> </tr> <tr> <td>「ペコちゃん展」</td> <td>3回</td> <td>120人</td> </tr> <tr> <td>「画家の詩、詩人の絵」</td> <td>2回</td> <td>120人</td> </tr> <tr> <td>「川口起美雄展」</td> <td>2回</td> <td>150人</td> </tr> <tr> <td>「濱谷浩展」</td> <td>1回</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td>「新収蔵作品展」</td> <td>2回</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>「わの会展」</td> <td>2回</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>ロビー展 「前田哲明の彫刻」</td> <td>1回</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>15回</td> <td>624人</td> </tr> </tbody> </table>				展覧会名	実施回数	参加者数	「京都市美術館名品展」	2回	93人	「ペコちゃん展」	3回	120人	「画家の詩、詩人の絵」	2回	120人	「川口起美雄展」	2回	150人	「濱谷浩展」	1回	42人	「新収蔵作品展」	2回	30人	「わの会展」	2回	44人	ロビー展 「前田哲明の彫刻」	1回	25人	合計	15回	624人
展覧会名	実施回数	参加者数																															
「京都市美術館名品展」	2回	93人																															
「ペコちゃん展」	3回	120人																															
「画家の詩、詩人の絵」	2回	120人																															
「川口起美雄展」	2回	150人																															
「濱谷浩展」	1回	42人																															
「新収蔵作品展」	2回	30人																															
「わの会展」	2回	44人																															
ロビー展 「前田哲明の彫刻」	1回	25人																															
合計	15回	624人																															
<b>特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画家の詩、詩人の絵のギャラリートークは、各回60人の参加者があり、好評でした。</li> <li>・川口起美雄氏作家本人によるギャラリートークは人気があり、参加者が多かった。</li> <li>・「画家の詩、詩人の絵」では、ギャラリートークのほか窪島誠一郎氏（信濃デッサン館館主）による講演会「絵を語る、詩を語る」を開催し、141名の参加があり大好評でした。</li> </ul>																																	
<b>協議会委員の意見欄</b>																																	
<b>事業の感想やコメント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員や作家によるギャラリートークは、作品をより身近に感じ、美術を見るヒントを得ることができる。作品を深く理解するには、有効な方法である。</li> <li>・作家や作品の説明だけでなく、隠されたエピソードの紹介などもあり、鑑賞する上で大変親しみを持って臨むことができ、楽しみ方が増える。</li> </ul>																																	
<b>今後に期待すること</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員や作家本人によるギャラリートークは魅力です。作品を前にしての解説や質疑応答は、鑑賞の度合いを深めることに通じる。今後も工夫を加え、可能な限り回数を増やし継続していただきたい。</li> <li>・ギャラリートークと共にバックヤードツアーも美術館を楽しむには効果的である。</li> <li>・川口起美雄氏のような地元作家を掘り起し、ギャラリートークを実施していただきたい。</li> </ul>																																	
<b>【美術館の取組み】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者が作品に対し理解を深め、より身近に感じていただけるよう、学芸員や作家本人によるギャラリートークを継続します。</li> </ul>																																	